

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」総括表

法人名	(福)苗場福祉会	代表者	湖山 聖道	法人・事業所の 特徴	<ul style="list-style-type: none"> ・新潟市から千葉県、埼玉県で老人医療福祉医療について事業を展開しています。事業所は開設9年目。 ・利用者様を「お客様」にせず、自宅で生活していくために必要な家事や運動機能について職員と一緒にいながら維持、改善していくこと。 ・訪問・通い・宿泊といったサービス調整で入所せずに自宅での生活が継続できることを目的としています。 ・認知症介護実践者研修に職員を積極的に輩出し認知症になっても住み慣れた地域で生活ができるよう地域理解や、周辺症状の改善に繋がるケアについて考え実践しています。
事業所名	健康倶楽部ゆざわ	管理者	高橋舞子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	人	1人	2人	2人	1人	0人	12人	1人	20人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	<ul style="list-style-type: none"> ・湯沢町にある社会資源(サロン事業、民間サービスなど)をマップとしてまとめます。(3か月) 表があることで、その方に必要な小規模以外のサービスを調整し組み入れていくことをスムーズに実施できるようにしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ミーティングの際に町の認知症ケアパスをみながら社会資源を確認した。お客様の outreach マップを作成する際に地域の商店なども再認識できました。 ・予防事業への継続的な参加やご近所・友人のケアへの参画などケアプランへ反映しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議で様々な取り組みを共有させてもらい活動の拡がりがよくわかります。地域で支える資源として他の事業所や他の事業所やスタッフより実践的な協働を検討してください。 	<ul style="list-style-type: none"> ・より社会資源を知りケアプランに反映していきます。サービス担当者会議もサービス事業所だけでなく近所や友人、支援者などケアへの意見を聞ける場を増やしていくのが目標。
B. 事業所のしつらえ・環境	<ul style="list-style-type: none"> ・施設内の装飾に関しては、個別ケアを推進する委員会の委員が中心となり趣のある装飾をお客様と一緒に作っていくことを開始しています。 運営推進会議の日程でフロア内の変化を評価していただきたいと思えます。 ・来客用の靴置き場を作ります。(1ヶ月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・和室では公文学習療法をしたり、足を伸ばしたりお客様は徐々に利用できるようになりました。 ・靴置き場を設置しました。利用してもらっています。 ・思い出の写真の掲載やしつらえが子供じみたものにならないように意見を出し合い改善しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・装飾や雰囲気は掲示物など写真なども額に入り掲示されていて改善が見られた。 ・子上がりの量の部分は落ち着いた雰囲気になっている。利用者もよく利用しているのか。 →利用していただいている。 	<p>今後は和室にテレビやお茶道具などもあることで自宅のお茶のみに近い雰囲気や人が集う場が提供できるのではないかと意見もあり検討していきます。</p>
C. 事業所と地域のかかわり	<ul style="list-style-type: none"> ・湯沢町にある社会資源(サロン事業、民間サービスなど)をマップとしてまとめます。(3か月) 表があることで、その方に必要な小規模以外のサービスを調整し組み入れていくことをスムーズに実施できるようにしていきます。 	<ul style="list-style-type: none"> ・今年度小規模の待機が確保できるようになった要因は、現利用者からの口コミによるものが多く。直接話を聞きたい来所されたケースもあり、その後喫茶に誘うなどして申し込みにつながりました。 ・町内の行事への参加は沢山しています。毎日の買い物も実践が継続しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設がある町内や付近、利用者関係者には周知されている。地域をどのエリアとしてとらえるかによるが、町全体への周知はどの程度なのかわからない。町内の行事、祭、施設開催行事などに地域をお誘いしたり、職員と利用者で参加している姿を見ている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の行事、祭、イベント、会議などへの継続的な参加をしていきます。施設で地域貢献できる活動を計画し町内へお誘いしていくこと、買物、外出などで職員と利用者と一緒にやり出かかっている姿を見てもらうことで施設の周知をしていきます。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・地域行事への参加(Cの取り組み)、地域の困っている方へのアプローチ方法(Eの取り組み)、地域資源の活用(Aの取り組み)を実施することで改善に繋がっていきます。消防団へのサポーター養成、オレンジカフェの外部開催、集落単位での探索訓練などを実践(12か月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団へのサポーター養成講座はできなかったが、探索訓練・予防事業アシスタント・道路公団への講座は職員主体で開催できた。 ・施設がある町内や委員になっている家族の地域からは会議の参加があり意見交換しているが、それ以外のお客様家族の参加は現状ではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設や設置エリア以外での活動の課題 ・利用者以外の関係者や地域への関わり支援は今後の課題 ・またお寺での開催も良いと思う。事業所以外の地域でのカフェの開催は定期でなくてもできると地域の力を感じられると思います。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業所の所在の町内会だけでなく、ほかの地域へ赴いてのカフェ活動を行う予定です(不定期2回を目標)引き続きSOS探索訓練への参加(職員もお客様も)をしていきます。 ・企業団体へのサポーター養成講座の開催や他事業所への認知症ケアの啓蒙活動を行っていきます。
E. 運営推進会議を活かした取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・包括支援センターとの相談、紹介、利用、その後のケース検討などについて話し合い、流れについて整理をします。(6か月) ・各種改善事項に関してのモニタリング評価を運営推進会議で行いながら年間で各項目の評価と振り返りを行います(12ヶ月) 	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者以外での地域で心配な方の意見交換はできていない。個人情報の取り扱いが難しくなっており現時点では困難です。 ・地域の消防団・カフェの参加者が納涼祭を手伝ってくれたり地域からの祭りへの参加があり交流は昨年より多かったです。 	<ul style="list-style-type: none"> ・2の項目は個人情報の取り扱いが難しくなっている。なかなか難しい。 ・3は地域の消防団・カフェの参加者が納涼祭を手伝ってくれたり地域からの祭りへの参加があったりして交流しているのが良かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域からの意見を反映しながらカフェや納涼祭が地域の社会資源としてより活用されるように周知活動も積極的に行います。
F. 事業所の防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・平成28年度は運営推進会議と総合防災訓練日を調整し、参加いただくことで施設の防災マニュアルや訓練内容について知っていたり、またご意見をもらい、いざという時に地域の方にも意識していただける防災対策に繋がっていきます。(6か月) 	<p>地域の消防団より夏4名、秋6名の参加。地域住民4名参加され実際の避難誘導に関わっていただけました。「いつもカフェに参加しているからお客も混乱がなかったし、私たちもこのお客様は歩けるとか話せるとかかわかっていからよかったと思う」と地域の方からお話がありました。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団や地域住民が防災訓練に参加して意見交換されているのが良かった。 ・頑張ってほしい期待しています。 	<ul style="list-style-type: none"> ・運営推進会議の場を防災訓練とすることで、皆さんに参加していただき、意見をお聞きすることで負担なく参加していただけるように計画します。